

第1回県のがん対策に関するタウンミーティング報告書

実施日：平成21年9月5日（土）

時間：13:00～17:00

場所：浦添市てだこホール 市民交流室

主催：沖縄県がん診療連携協議会

参加人数：46名（一般26名、政党関係3名、報道関係2名、医療関係15名）

アンケート回答率：58%

9月26日（土）浦添市てだこホールにて「第1回沖縄県のがん対策に関するタウンミーティング」が開催された。一般市民と医療関係者、行政関係者が意見交換することを目的として開かれ、「もっと相談の場がほしい」「県がん条例の早期作成を」との提案には、参加した約50名全員が賛成の挙手で思いを一つにした。

前半部分では、NPO法人日本医療政策機構理事 埴岡健一氏による「全国各地におけるがん対策の現状」について紹介された。それと比較し、沖縄県福祉保健部医務課長の新垣森勝氏より「沖縄県のがん対策の予算と現状」について述べられた。それらの実状をふまえ、後半では参加者へ開始前に配布していたアンケート用紙を記入してもらい、その場で回収・集計をとったデータをもとにディスカッションが行われた。



今回、ディスカッションに参加した医療関係者、行政関係者

NPO 法人日本医療政策機構

理事

ほにおかけんいち

埴岡健一

沖縄県福祉保健部

医務課長

あらかきもりかつ

新垣森勝

北部地区医師会病院

副院長

しばやまじゅんこ

柴山順子

県立中部病院

診療内科部長

たまきかずみつ

玉城和光

那覇市立病院

副院長

くだかひろし

久高弘志

琉球大学医学部附属病院

がんセンター長

ますだまさと

増田昌人



会場からのアンケート回収結果より、9割が「現在のがん対策に関し満足していない」と考えていることが報告された。また会場より病院や医師によって治療方針が違うとの指摘があった事に関し、埴岡理事は「今後、県内すべての病院でがん治療の標準化をすすめようという動きがある。それが現実となることでたくさんの命が助かることを期待している」と述べた。その他にも、緩和ケア病棟が少ない・県の予算がすくないため対応できないなど、両立場（患者・医療関係者）からの切実な思いが訴えられた。

会の最後には宮古島出身歌手の砂川恵理歌さんより、あるがん患者さんの最期の言葉から生まれた曲「一粒の種」の他3曲が披露され、会場は大いに盛り上がった。

